

【Jarani Whitetop】

説明

解説

■ 神殿

嵐の神殿。小神。

■ 称号、職能

法官である証し“法の杖”を人に授ける英雄神。

■ 概略

ヴィングコット族の時代、矢の塚の山にジャラニとその血族が住んでいた。彼は「いすわり」の法により従い、矢の塚の山の王を称していた。しかしある日、ハランド・ボーディグという男が、「ぶんどり」の法に従い、自分こそが矢の塚の山の王となると主張した。こうして両者は争い、ついに両者はともにオーランスの助けを求めた。というのも、「いすわり」も「ぶんどり」もオーランスが定めた法だからである。

こうして現れたオーランスは法の杖を手になっていた。そしてジャラニが正しいと定めおいた。それに従えぬハランド・ボーディグは仲間を連れ矢の塚の山に攻め込んだ。戦は激しく多くのものが死に、またジャラニの呼び掛けに答えてオーランスが現れた。そして敵には皆追いやられてしまった。

ジャラニはこれを記した碑を「正義の石」の地に立てた。そうして、この地にて裁き手に相応しい者がオーランスを称え贅を捧げると、ジャラニの手により法の杖が授けられるようになった。

オーランスのカルトとしては社会的地位に根ざしたカルトであり、その信者は限られている。

組織

■ 相、カルト

すべての父オーランスの下位カルト。

近親

■ 両親

父親はラゴーン。

別名

- ・“法の杖” ジャラニ
- ・白髪頭のジャラニ
- ・“山すべりの” ジャラニ

参考文献

- ・『グローランサ神名録』 p.92-94
- ・『Thunder Rebel』 p.217、 233-234